

第5回新淡路地域ビジョン検討委員会 議事録

1 日 時 令和3年3月23日(火) 18:30~20:10

2 場 所 洲本総合庁舎3階会議室

3 出席者

委員：山本委員長、澤田副委員長、栄井委員、片平委員、堤委員、森委員

横山委員、木下委員、東田委員、安居委員、原委員、堀内委員 (12名)

県：亀井県民局長、吉野交流渦潮室長、木南ビジョン課長、刃物班長、福栄

4 内 容

(1) 県民局長挨拶

緊急事態宣言が解除されたが、なかなか収束には向かっていない。県内では神戸、尼崎、西宮、芦屋市の飲食店に対して3月31日まで時短要請が続いている。淡路島内においても散発的に患者が発生している状況である。

一方で、3月13日に淡路島開きが行われ渦潮観潮船の新造船が就航し、3月20日には花みどりフェアがオープンし、明るい話題も出ている状況である。

本日は新ビジョンの構成等について議論していただく予定としており、だんだんと最終を見据えて具体化していくことになる。本日も熱心な議論をよろしくお願いいたします。

(2) 議題1：兵庫県将来構想試案について(資料1-1：ビジョン課、資料1-2：事務局)

【主な意見】

- ・災害等があったとしても、いつでも淡路島は復活できるということをビジョンとして持つておく必要があるのでは。
- ・最期まで安心して暮らすためには、それを支える人が必要である。人への投資、人を大切にする淡路島を目指すべき。
- ・ゼロからでも再構築するエネルギーを持った人を育てる必要がある。
- ・やりたいことを形に出来る教育が必要。教育と経済をリンクさせた教育。
- ・ドイツのマイスター制度のように仕事に誇りと憧れが持てる制度を国や県でつくる。
- ・淡路島は自殺率が高い。個性を活かせるような学びの場が必要。
- ・災害やコロナのような非常事態があったときの対応を整えればより安心して暮らせる。
- ・淡路島は車がないと住みにくいが、洲本エリアは車がなくても生活が出来る環境にあるように思う。洲本ICは関西や四国方面の高速バスが多く通過しているため、そこを拠点に他のエリアとつなげば観光客や移住者も増えるのではないか。
- ・外に出た若者がいかに魅力を感じて淡路島に帰ってくるかが大事。
- ・人と人との縁を大切にすることで防災にもつながる。
- ・農業などの後継者を確保しないと食糧自給率も100%を切ってしまう。
- ・達成すべき目標は「人の幸せ」である。
- ・淡路島はジェンダーバイアスがひどい。そこを解消することで高齢者や子どもが大切にされることに波及していく。
- ・食の豊かさや風景など、全体を支えているのは豊かな自然である。地域への愛着を持って帰ってくるのも自然があるから。
- ・住んでいる人の幸福度や満足度が高ければ、外からの人に対して優しくなれる。

(3) 議題2：淡路新地域ビジョンの構成について（説明：事務局）省略

【主な意見】

- ・1988年の「淡路島リゾート構想」や、その後の「淡路島公園島構想」のように淡路島をわかりやすく表現するのが重要ではないか。例えば「淡路島美食の島構想」のように淡路島が持っている強みをどう30年後に掲げてメッセージ性を出すかが重要である。
- ・30年後の社会像を目指すための1つの要素として「美食の島」というのはあるかもしれない。
- ・「目指す社会像」とするよりも「目指すべきビジョン」とした方がワクワクするのでは。
- ・「人の幸せ」を目指すことは、日本中どこにいても当たり前のことである。そこを強く押し出す必要はなく、淡路島らしい言葉で表現することで他の地域との違いを明確にする必要がある。
- ・淡路島は「食」に関わる仕事をしている人が全国的にも圧倒的に多い。経済や環境、教育の軸となる要素であると感じている。イタリアには「食」で人を呼び、持続的に経済がまわっている島がある。
- ・これまで掲げている「環境立島」をあえて変える必要もないと思うし、間違ってもないと思う。ただ具体性がないようにも思う。
- ・自然を大事にすることで人が暮らしやすくなる。防災にしても、豊かな自然があるから減災につながるというのがある。
- ・人が快適に暮らすためにはほどよい自然が必要で、淡路島の農村的・漁村的な自然は、人と自然のせめぎ合いの中でバランスの良い自然が出来上がっている。
- ・現在のテクノロジーに触れて都市部で暮らしやすさを経験すると、自然と共生しながら暮らすのが難しい。これからの30年は自然よりも、それぞれの人が何をどう考えて、それぞれの人が「淡路島はこういうところだ」と言える地域をつくるように、「人」にフューチャーしたテーマがいいのでは。
- ・淡路島に住んでいることや、移住したことを誇りにできれば、それを子供にも答えられる。その時に「自然が豊かだから」とは言わないと思う。
- ・淡路島は自然というよりも「立地環境」に恵まれていると思う。
- ・自然は日本全国どこにでもあるが、京阪神に近くて、自然があつて、食が美味しいということをもとめられればいい。
- ・目指す社会像のテーマとしては、特定のものだけでなく、いろんなことを包括するものがあると思うが、それで個性が死んでしまつては駄目なので、その中で個性を出していければと思う。
- ・構成案の項目としては、シンプルでわかりやすいということでは賛成である。
- ・淡路島は歴史上、飢餓、飢饉がないと聞いたことがある。それはすごいことだと思う。
- ・食に困らない『食いっぱぐれない島』というのはおもしろいのでは。生きていける安心感があるし、それくらいインパクトがある方がいい。
- ・意味を聞かれても、「個人が尊重される島」や「農漁業が豊かで食糧自給率が高い島」などいろんな説明ができる。
- ・全てリセットされた状態からでも再開できるバックアップ機能は強みとして入れておいた方がいい。
- ・『不死身の島』というのはいかが。防災にもつながるし、興味を持ってもらえる。
- ・みんなが意味を知りたくなるようなキャッチコピーは重要。